

●登場人物

先生 はづき みかど 人気漫画「魔女たちのパレード」作者  
こがね 金田 美奈 アシチーフ 元漫画家「こがねなみだ」

ミスミ 三角 弥生 アシ① 元エンジニア。スタジオI T化担当  
ケイ 如月 桂 アシ② 体育会系。気合・体力勝負  
カンナ 菱谷 カンナ アシ③ 見習いアシスタント。

銀さん 銀杏谷 文子 編集者 「セイレーン」編集部 みかど担当  
ハリソン 五月 あゆむ 家政夫 スタジオの生活面の全面サポート係

●ものがたり（魔女たちのパレード シンデレラ編）

声1・裁判官1

声2・裁判官2

声3・裁判官3

語り部

ナキサワ

王子

娘

舞台は現代、2017年10月を想定

東京江戸川区葛西の中高層マンションの最上階にある

デイズニールランドの花火が見えるマンションの一室。

はづき みかど の 住居兼スタジオ

1 ものがたりのはじまり

暗闇の中、娘たちの笑い声が聞こえる。

声1 ねー、ねー、「魔女パレ」って知ってる？

声2 「魔女パレ」？

声3 知ってる！ 「魔女パレ」、「魔女パレ」！

声2 何、それ？

声1 今流行っている漫画だよ！ 知らないの？

声2 知らない。

声3 「魔女たちのパレード」略して、「魔女パレ」！

声2 「魔女たちのパレード」？

声1 そう、そう。「セイレーン」の人気漫画だよ！

声2 そうなんだ。

声3 「このマンガがすごい」にも出てたよね。

声2 どんな漫画なの？

声3 まあ、手短に言うのと、いろんなおとぎ話に出てくる女の子が主人公で、

実はその子は「魔女」だって話。

白雪姫も、赤頭巾も、かぐや姫も、実はみんな「魔女」！

声1 へー。魔女か・・・

声2 今月号読んだ？

声3 読んだ、読んだ！

声1 誰が主人公なの？

声3 それはね・・・

時計台の時を知らせる鐘が鳴る。

笑いながら消えていく娘たちの声。

入れ替わるように、闇の中から語り部が現れる。

語り部

これは、いつかどこかの話。満月の夜のこと。

華やかな舞踏会が行われていたお城の前の広場で

いま、ひとりの魔女が裁かれようとしていた。

闇の中にスポットライト。

シンデレラが浮かび上がる。

民衆たちのざわめきが聞こえる中、裁判官の槌の音が鳴る。

裁判官1 静粛に！ 今より、臨時裁判を執り行う。

裁判官2 被告の名は「シンデレラ」。

裁判官3 かのイザナ伯爵の娘であり、そして、あの忌まわしき魔女の娘！  
裁判官1 異国より訪れ、イザナ伯爵をその魔力で虜にし、妻の座を射止め、わが国に災厄をもたらそうとしたあの恐ろしき魔女！

### ざわめく民衆

裁判官2 火あぶりの刑にしたのに、その娘もまだ生きていたとは！

裁判官3 伯爵は「自らの手で娘も殺めた」と言ってたのに、

我々はだまされておりました。

裁判官1 おのれ、魔女どもめ！

母親だけでなく、娘までも伯爵の心を操ったか！

裁判官2 森の奥にある伯爵の別荘に隠れていたと、

イザナ伯爵の妹、ナキサワより通報がありました。

裁判官3 ナキサワを、ここに。

### 3人の女（ナキサワと二人の娘）浮かび上がる

ナキサワ イザナの妹のナキサワと申します。

これにいるは私の娘たちでございます。

裁判官1 お前の知っている事を、嘘偽りなく、ここに述べよ！  
ナキサワ はい。ある日、イザナ兄さんから手紙が送られてきました。  
自分は病に倒れ、命は長くないと。

そして、「森の奥の別荘にあの魔女の娘を幽閉している」とも。

私は娘たちとともに、その別荘に行ってみました。

すると、手紙の通り、そこにシンデレラがおりました。

私は、いち早く、このことをお知らせせねばと、

舞踏会の最中ではありますが、お城に参りました。

しかし・・・

裁判官1 そのこのシンデレラがお前の口を封じるべく、

この舞踏会まで追いかけてきたという訳か！

ナキサワ そうでございます。

裁判官2 なんということ。魔女がこの城に立ち入るとは！

裁判官3 しかも、舞踏会にいる男たちの心を、

その魔力でたぶらかしたというではないか！

### 民衆の怒りの声のざわめき

裁判官1 ナキサワ。そなたの勇気に感謝する。

### ナキサワたち、闇に消える

裁判官2 これはもう紛れもなく「魔女」だ。  
裁判官3 母親と同じく、火あぶりの刑が望ましいかと。

「死刑！」の声のざわめき

裁判官1 静粛に！ 静粛に！

判決を下す。被告人は死刑。

ただちに、ここで火あぶりの刑と処す！

一同、歓喜のおたけびをあげる

王子 お待ち下さい！

闇の中、王子様が現れる

王子 その判決、お待ち下さい！

裁判官1 王子、あなたがこのような場にお越しになるとは！

裁判官2 ここには、何が起きるかわかりませぬ。

裁判官3 今すぐ、お城にお戻りください。

王子 いや、父亡き今、私がこの国を守らなければなりません。

そして、わが国にいるものすべてに、私は目を届けたい。

裁判官1 ご立派でございます！

裁判官2 亡きお父上もお喜びかと。

裁判官3 魔女の呪いさえなければ！

王子 その娘よ。私は知りたい。

なぜ、そなたはわが国に不幸をもたらすのか？

娘（シンデレラ）はゆっくりと答える

娘 なぜ殺した・・・

王子 ん？

娘 母をなぜ殺した。

裁判官1 それは魔女だからだ！

娘 どうして魔女なの？

裁判官2 われらに災厄をもたらすからだ！

娘 災厄って？

裁判官3 王の命を奪った流行病（はやりやまい）だ。

娘 そんなことで、そんなことで、  
母を、女たちを殺したの？

王子

そして、これからも殺していくの？  
娘よ。私は知りたい。  
災厄を、疫病を、不安な日々を、なぜわが国にもたらすのか？  
それが望みか！ それこそあなたの望みなのか？  
答えよ、そなたの望みを！

娘

私の望み？・・・  
私の望みは・・・  
「みんな、みんないなくなれ！」

地面の底から響く音がする

語り部

シンデレラがその言葉を発すると、  
地の底から響くような音が鳴り、  
お城が丸ごと消えてしまいました。  
そう、ぽっかりと大きな穴を残して。

語り部 本を閉じる。  
暗転。

場所は、漫画家「はづきみかど」のスタジオの休憩室。  
真ん中に大きなテーブル。部屋の隅にもテーブル。

とにかく物がいっぱいある、でも、なぜかそれなりに整頓されて収まっている。

悲鳴が聞こえ、明かりつく。

みかど先生はじめ、アシスタントたち、そして担当の銀さんがいる。

悲鳴をあげていたのはアシ3人娘

ミスミ 無理です！

ケイ できません！

カンナ おうち帰りしたい！

先生 いいや。このままでは納得がいかない！

描き直し！ リライトだ、リライト！！

銀さん みかど先生！ もう締め切り間近ですよ。

それを、ここで変更するなんて！

先生 いや、このまま駄作を世に出したくない。

銀さん 駄作じゃないですよ。ネームでも十分面白いですし、

シンデレラ城が消える4話目は、

読者からの評判もすごくいいんですよ。

だからこのまま、最終話を描き切りましょう！

だから、「ちよつと」変えたいだけなの。

先生の「ちよつと」は「全面」と同じ意味です。

ミスミ このままでいいじゃないですか！

おうち帰りしたい！

先生の提案は理にかなってませんよ。

もうすぐ完成なんだし・・・

おうち帰りしたい！

いやだ！ 描き直す！

銀さん いったいどこを直したいんですか？

とにかく、シンデレラにもっと凄みを持たせたいんだよ。

私の直感が、今のままじゃ、まだ足りないって言ってるんだ。

銀さん みかど先生！

大丈夫！ そうでしょ、銀さん。今までだってそうだったでしょ。

ミスミ いつもギリギリですよ！

締め切り迫ると、いつもこうなるもんね。

カンナ やっぱり帰れないのかな？

銀さん 変更したかったら、どうするかさっさと決めること。

それができないなら、今のままで行く。それしか許しませんよ。  
どんなお話を描こうとも、

16日の月曜日の締め切りだけは“絶対”守ってください。

いやだ！ 締め切りなんか縛られたくない！

もう、そんな事言わず、がんばりましょう。

がんばれない！

原稿落としたら、連載そのものが消えちやいますよ。

大丈夫！ シンデレラは私たちが責任をもって世に出すから！

だから・・・とにかく褒めて！ 褒めて！

わたし、やればできる子だから。

ダメ出ししないで。いじめないで。

いじめてませんよ。

でもね、今日はもう13日の金曜日なんですよ。わかってますか？

そうか、今日は13日の金曜日か！

そうです。あと2日で、できますか？

できるまで、先生のそばから離れませんから。

ええー、それはプレッシャー・・・

なにか？

おのれ、13日の金曜日！（捨て台詞を言って逃げる）

大きな棒を持った白い顔の男が出てくる。

先生  
ぎゃーー

### 一同、白い顔の男に注目

ハリソン 先生、僕ですよ。

先生 えっ？ ハリソン？

ハリソン あの、びっくりさせてすみませんでした。

先生 何？

ハリソン 晩御飯の用意できましたので、お出ししてよろしいでしょうか？

ミスミ みかど先生、いったんご飯にして、落ち着きましょう

ケイ そうです。腹が減ってはなんとやらですから。

カンナ ハリソン、今晚は何？

ハリソン はい。今夜は「手打ちうどん」です。

4人 ・・・・えっ？！

ハリソン あとは茹でるだけですから、すぐにできます。

先生 ハリソン？

ハリソン はい？

先生 今日のお昼はなんだったつけ？

ハリソン はい、「手打ち蕎麦」です。

先生 だよね・・・で、なぜ、うどん？

ハリソン 「やっぱり麺類は手打ちが最高。もう手打ちじゃないと食べられない」とお昼に先生がおっしゃってたので

ハリソン、満面の笑み。善意100%の笑顔。

先生に注目するアシ3人。

先生 そっか・・・言ったか・・・

ハリソン 腕によりをかけて打たしていただきました。

先生・・・ご苦労。では、早速、用意して。

ハリソン 了解しました！ 銀さんのもご用意していいですか？

先生 もちろん。

銀さん いいんですか？

ハリソン こんなこともあるかと、ちゃんと用意していますので。

銀さん いつもご馳走になってすみません。

ハリソン いえ、大丈夫です。これが家政夫のつとめですから。

ハリソン 去る

ミスミ ハリソン、絶好調だね。

ケイ 「張り切りすぎて、損をする」、ゆえにハリソン。

カンナ でも、ハリソンの女子力はハンパないよ。

一同 納得

そこにアシスタントチーフ こがね 一仕事終えた感で入ってくる。

こがね 先生！ ペン入れ、終わりました。

(アシたちに)あとで、スキャンお願いね。

アシ3人 こがね先生、いい！

こがね どうしたの？

ミスミ みかど先生が描き直しを！

こがね また？！

ケイ チーフのこがね先生からも止めるように言ってください。

こがね 先生、また描き直しされるんですか？

先生 こがね先生は、わかってくれますよね。

こがね 私は、このアシスタントチーフですから、先生の味方です。

先生 先生が納得したいものを創りたいなら、私も全力でお手伝いします。ありがとうございます。

こがね でも、それは作品が完成すること前提ですから、



先生 あくまで締め切り守れる範囲内までです。  
銀さん そんならっ！ こがね先生はわかってくれると思ったのに。  
こがね先生 こがね先生が現役の頃は、

こがね先生 でも、銀さんからは、何度も描き直しを言われた事がありますけど。  
銀さん あら、そうでした？ あの頃はまだ私も駆け出しの編集でしたから。  
その節はすみませんでした。

こがね先生 いえいえ。みかど先生のアシの仕事、紹介してくれて、感謝してます  
先生 あー、もうその二人も一緒になって私をいじめる〜！！  
こがね先生。締め切り直前なのに、作品をより良くして行こうという姿勢は  
とてもすばらしいです。でも、これは仕事でもあるんです。

よりよい物を出す、でも締め切りを守るのが、私たちプロでしょ。

先生、あばれはじめ。

先生 あー、なんであれやこれや余計なことを考えなきゃいけないの。  
人気？ 読者？ そんなのが欲しくて描いているんじゃない。

銀さん 先生！  
先生 私は漫画を描くのが好きなの。描ければ幸せ！  
別にひきこもりでもいい。友達いなくてもいい。

一人でも楽しめるから漫画やっているの。  
なのに、なんで、なんでこんなにめんどくさいことばかりなの。

銀さん 原稿落としたら、先生のファンの人達みんな失望してしまいますよ。  
先生 もう、私には限界。今はもう何もでない。出るとしたらうんこだけ。  
銀さん 何を言っているんですか！  
先生 もう、うんこしか出ない。うんこ、うんこ。

銀さん あー！ーもう、全部うんこに描き換えてやる！  
先生 そんなの、編集の私が許すわけ無いでしょ。  
許さなくてもやる！

銀さん 締め切り守れない漫画家は「うんこ」以下です。  
先生 「うんこ」以下！

銀さん そうです。「うんこ」以下です。「うんこ」の風上にも置けません。  
先生 そりゃ、この世界じゃ「うんこ」みたいな存在ですよ。  
きれいな、かわいい、涙出てくる、そんな作品、反吐が出る。

わたしの中にあるドス黒いもの描いたら、  
雑誌に掲載され、連載になって、ヒットしちゃって、  
あらま、いつの間にか人気作家の仲間入り。すばらしき印税生活。

そして、手に入れたのは、この夢の城、私のスタジオ。  
高層マンション最上階のこの景色、窓の外にはデイズニーが見える。  
さらに、素敵なのは、毎月毎月の締め切り。締め切りよ！

ミスミ　　めんどくさくなってきましたね。  
先生　　ドス黒いものしか出ないけど、  
それでも、いいもの出さなきゃいけないプレッシャー！  
もう、夢のような悪夢の日々！

ケイ　　もうやだ、なんで毎月、魂の排便行為をしなきゃいけないの？  
いつもお通じいいわけじゃないじゃん。でも、やっぱり出す以上は  
「おおーっ、これだよ。これ！」ってのが欲しいでしょ。  
えー？

外から遠く、ディズニールランドの花火の音が聞こえる  
窓をにらみ付ける先生

先生　　ちくしょー、ちくしょー。花火なんて上げやがって。

どうしてあそこにシンデレラ城が見えるんだ。

年パス買ったのに行く暇が無い私へのあてつけか！

自分でここに引越してきたんでしょ？

暇がないのも、自分の仕事の進め方のせいなのに。

花火があがるたびにこれだもんね。

まあ、これがストレス発散みたいなものだからね。

先生　　みんな、夢と魔法の王国でいいことしているんだろうな。

いいな・いいな・

みんな、あそこで　ちゅっちゅ　ちゅっちゅ　してんだ。

いつにも増して、クレイジーですね。

欲求不満？

しっ！

先生　　あー、わたしダメだ。もうダメ。

うんこだ、うんこ。いや、うんこ以下。

アンダー・ザ・ウンコ。

イツツ・ア・スモール・ウンコ。

スプラッシュ・ウンコだ。

ひどい！

あー、先生。まずはとにかく落ち着いて。

およよよよ（ひどい顔で泣く）

もう、何がやりたいんですか！

あー、もうやだ。何もかも嫌だ。

「みんな、みんないなくなれ！」

カンナ  
銀さん  
先生  
銀さん  
先生

地響きがする。その直後、暗転。世界は闇に包まれる。  
真っ暗な部屋。外の花火も聞こえず、静寂に包まれている

先生 えっ？  
こがね 停電？  
銀さん ちよつと・・・  
カンナ 真っ暗・・・  
ミスミ そうですね。  
ケイ うわああ・・・  
先生 ちよつと、やだ。誰か、明かり、明かり。  
懐中電灯はどこ？どこしまった。  
ちよつと、なんとかして！

先生以外、全員冷静にスマホを出してかざし、先生に向ける

先生 えっ？  
こがね 大丈夫ですか？  
先生 ええ。  
銀さん 停電？  
こがね みたいですね。  
ミスミ しまった！  
ケイ あっ！  
カンナ 何？  
先生 どうしたの？  
ミスミ いや、原稿データが！  
ケイ あー！ 大丈夫かあ！？  
カンナ えっ、何？ 何？  
ミスミ ちよつと見てきます。  
ケイ カンナも来るんだよ。  
カンナ えー？  
こがね 足元気をつけてね。  
カンナ はい！

アシ3人、あわてて部屋を出て行く。

銀さん 今ので、原稿データ全部飛んだ？  
こがね そうでなければいいんですけど。  
銀さん もう最近は全部データ入稿ですからね。  
こがね 私はいまだに慣れないのでみんなに手伝ってもらってますけど。  
銀さん バックアップは取っていますか？  
こがね そこはミスミちゃんがマメに取るように心がけています。  
銀さん さすが元システムエンジニア。  
銀さん そうですすよね。でも、電気がないと、原稿をあげられないなんて、

こがね 私たちの頃とはずいぶん変わりましたね。  
銀さん ほんと。昔は全部、ケント紙の上で描いていましたもんね。  
こがね そうそう。  
切り貼りとか、ホワイトとか、トーンとかで、  
紙の上にこう盛り上がってましたからね。

銀さん まさに箱庭でしたね。  
こがね スクリントーンとか今の子は知らないですから。  
そうそう、

トーンの切れ端が、口の中に入って咳き込んだりとか  
ああ、お風呂入ったら、湯船にトーンの切れ端がぶわーと  
いっぱい浮かんだりとかね

あつた、あつた。今はそんなアナログな時代じゃありませんもんね。

こがね 「軀の森」の生原稿、まだ持っています？

もちろん。アナログの塊ですからね、あれ。

まさに、血と汗と涙の結晶ですもんね。

何度もダメ出しされましたからね。あつ、あとで見ますか？

え？ ここにあるんですか？

そりゃ、私の出世作ですから、私の分身のようなものです。

ぜひ！ 私にとつても思い出深い作品でもあるんですから。

あるんですかあああああ！？

先生？

先生 あの名作、こがねなみだ「軀の森」

ああああ、私のバカバカバカバカ

その生原稿が、私のすぐそばにあつたなんて！

今すぐにも額縁に入れて、神棚に飾りたい！

こがね先生、見せてください。

そんな、私の原稿なんて先生のに比べたら・・・

先生 こがね先生！ こんな至らない私のアシスタントを

引き受けていただいても感謝しています。

そして、本当に申し訳ないです。

いや、それは好きでやっているんで。

今はこれがちょうどいいんですよ。

それに今は作品掲載していませんから。

私こそ・・・

こがね先生、原稿、見せてください。一生のお願いです。

先生。。。わかりました。ではひとつ約束してもらえますか？

何ですか？ どんな約束だって守ります！

どんな約束もですか？

ええ！

じゃあ、早く原稿を仕上げてください。

先生 入稿し終わったら、そのあとゆっくり見せてあげます。  
えー、今見せてください。今じゃダメですか？  
見たら絶対、絶対、原稿仕上げますから。

### ハリソン 大きな懐中電灯やら、ランタンやら持ってくる

ハリソン みなさん、大丈夫ですか？

先生 ハリソン！

ハリソン こんなこともあるのかと、灯り持ってきました。

こがね さすが！

ハリソン 部屋の電気、全部ダメですね。

ブレーカーは落ちていませんでしたから、

このあたり一帯が停電みたいですね。

先生 えっ？

### 先生、こがね、銀さん 窓から外を見る

先生 うわ！

こがね あああ・・・

銀さん 確かに・・・

先生 真っ暗・・・

ハリソン どうやらこの一帯での大規模な停電ですね。

先生 テレビ、テレビでニュース見てみて。

ハリソン 残念ながら停電ですから。

先生 そっか・・・

ハリソン カンナさんがスマホで調べてくれましたが、

このあたりから都内までかなりの規模で停電のようです。

銀さん そんなに！ 原因は？

ハリソン 残念ながら不明です。ネットもかなり不安定らしく、

今はあまり詳しくはわからないそうですが、

大変なことになりましたね。

こがね あと、残念な話が・・・

ハリソン 何？

ハリソン 台所はオール電化なので、一切使えなくなっています。

先生 そうか・・・おのれ、東京電力！

ハリソン そのため・・・うどんをお出しできません。

うどんをおいしく茹でるには

お湯を高温で沸かし続けなければなりません、

今あるお湯だけでは、うどんは生ゆでになってしまいます。

そうになると、食感はお台無しになってしまうわけですね。

先生 食感が多少悪くてもいいよ、食べられるなら。  
ハリソン いや、そこは私のプライドが許せません。

そこで、メニュー変更のご提案です。

先生 えっ？

ハリソン とりあえず、今のところお湯は大量にあるので、

申し訳ありませんが、カップラーメンでお願いします。

先生 いつもと同じじゃん。

ハリソン まことに申し訳ありません。他の皆さんもがっかりしてました。

私も腕をふるえず本当に残念です。

そして、さらに問題なことが・・・

こがね 他にも？

ハリソン マンションの水道は一度屋上のタンクにくみ上げているわけで、

停電してしまうとくみ上げるためのポンプが止まってしまいます。

こがね じゃ、水道もいずれ使えなくなると。

ハリソン そうです。

ミネラル・ウォーターの買い置きもあるので飲み水はありますが、  
シャワー、トイレはいずれ使えなくなります。

ちよっと使用頻度を控えていただくことになるかと。

ああ、そう言われると、かえって気になる。

先生 いや、使ってはダメということではないですから。

ハリソン みかど先生！

銀さん はい？

銀さん この停電、結構規模が大きいみたいですし、

最悪のシナリオを想定して動きましょう。

なに？ その最悪のシナリオって？

はい。「原稿のデータが使えない」ということです。

先生 ええ！

銀さん その場合、データ入稿ではなく、生原稿での入稿となります。

もちろん、停電が回復すれば問題はないですが、

ハリソン おそらくこれだけ広域ということは、

変電所や発電所レベルでのトラブルでしょうから、

復旧するにもかなり時間がかかると思えますね。

先生 復旧しなかったら？

データをパソコンから取り出せませんから、入稿もできませんね。

銀さん ええ、ですから回復しなかった場合を考えないと。

何があっても原稿をいただくのが私の仕事ですから。

先生 うーん、それ考えるのは明日にしない。

いや、明日すぐに動けるように、今、ある程度は検討していないと。

銀さん わかりました。

先生、まずはスタジオの様子を確認してきます。

銀さん

私も行きます。

みかど先生。先生はプロです。「うんこ」なんかじゃないです。私が認めたプロの漫画家です。

そして、先生の作品を多くの読者に確実に届けるのが、私の仕事です。だから、先生もプロとしてできる限りの事をしてください。そのためのお手伝いならなんでもやりますから。

こがね、銀さん 去る

ハリソン 頼もしいですね、銀さん。

先生 そりゃ、「セイレーン」編集部のエースですから。

ハリソン こがね先生も担当されていたんですよね。

先生 そう、だから、その縁で、ここに呼んでくれたの。

ハリソン ほんと、お二人が先生をしつかり支えていますね。

先生 ほんと、いつもお世話になってるね。

ハリソン さて、それで、どうしますか？

先生 とりあえず、アナログでの入稿を考えてみるか。

たしかに待っていても停電が直るって保証はないし。

あそこまで言われちゃうと、まずは締切守らないと！

ハリソン ……いや、トイレのことですが…

先生 ……ハリソン！ 私もメシにする！ いつもの持ってきて。

ハリソン かしこまりました。

ハリソン 去る

一人残った先生

先生 窓の外を見る

先生 ほんと、真っ暗。全部真っ暗なんだよな。

真っ暗……

穴の底もこんな感じなんだな。なんにも見えない。

しばし、見えない闇の向こう側を見つめている先生。

そこにアシ3人がカップ麺を持って戻ってくる。

先頭のカンナが二つ持ち、最後尾のケイが懐中電灯を持っている。

先生 どうだった？

ミスミ ダメですね。

電源が戻らないと、データが無事かどうかもわかりません。

ケイ 全部パソコンの中ですから……

カンナ 手も足も出ません。  
ミスミ で、こがね先生がここまでの手描き原稿を整理してます。  
ケイ あのままじゃダメですよね。  
先生 それはダメ！ 手抜きなんかには絶対思われたくないから！  
ケイ わかりました。

### アシ3人、カップ麺をテーブルに置く。

先生 ちなみに、この停電のこと、何かわかった？  
カンナ ネットで見たんですけど、なかなかつながらなくて。  
ミスミ 都内や千葉の方も停電になってるみたいですよ。  
ケイ とにかく断片的で、あいまいな情報しか入らなくて。  
カンナ なんか、いろんなデマっぽいのも流れているみたいで  
先生 そうそう。デイズニーでテロがあったとかね！  
ミスミ テロ！？  
先生 いや、テロかどうかはわかりませんが、  
ケイ シンデレラ城が爆破されたとか・・・  
先生 嘘！？  
ケイ 先生があんなこと言ったからですよ・  
先生 何か言った？  
カンナ 「みんな、みんないなくなれ！」

### 先生のものまねをするカンナ

カンナ あ、冗談ですよ。冗談。  
ミスミ ま、こんな状況ですから、  
ケイ パニックがあちこち起きていますよ。地震の時も、いろんなデマが流れましたし。  
カンナ こっちもある意味、パニックですけどね。  
ミスミ 今夜、帰れないよね。  
ケイ 電車も止まっているし、道路も交通規制されてみたいだね。  
カンナ 最悪、ここで泊まり？  
ミスミ えー！  
先生 今夜無理して作業をしても、電源回復したら無駄になりますから、  
ケイ 作業は明日朝一番からにした方が効率いいですよね。  
カンナ みかど先生、それでいいですか？  
先生 うーん。こがね先生が戻ってきてからね。  
ケイ じゃ、ひとまず。お先にいただきます。  
先生 先生は食べないの？  
カンナ ハリソンに頼んだから。



アシ3人、食事をはじめ。  
こがね、銀さん もどつてくる  
打ち合わせをはじめ先生、こがね、銀さん。

こがね 先生。

先生 どうでした？

こがね

先生と私のペン入れ原稿はありますから、みんながパソコンでやっていた事を、手描きでもう一度やることになりましたね。

背景とか効果も手描きか。こりやしんどいな。

先生 銀さん

でも、お二人がアナログで描いているので、一からやり直しじゃないのが、不幸中の幸いですね。

こがね

アシのみんな、手描きでやるには、かなりてこずるでしょうね。そこは、わたしがなんとかフォローします。

銀さん

となると、かなり突貫工事ですね。ここは、今夜は無理しないで、

明日朝になったところで判断しましょう。

こがね

やはり、それがいいかと。

先生 銀さん

うーん、やっぱ、そうなるかあ〜！なので、先生も描き直したいなら、今夜中にプラン決めてください。明日、朝打ち合わせて、そこでGOサインを出します。

先生

わかった！ みんな、聞いていた？

ミスミ

はい。

ケイ

聞いてました。

カンナ

じゃ、泊まっていいですか？

先生

いいよ。

ケイ

やはり、そうになりましたね。

ミスミ

まあ、もともと泊まりの用意もしてきたけど。

カンナ

(携帯で自撮りをする)

ミスミ

ん？ なにやってんの？

カンナ

おやすみのキスをラインするの。

ケイ

はいはい。ごちそうさま。

銀さん、携帯で電話を何度もかけるがつかない。

そこにハリソン、頭にはヘッドライトをつけて、カップ麺を3つ持ってくる。

ハリソン

こがね

先生

おまたせいたしました。

ありがとうございます。

じゃ、食うか。

銀さん 携帯、なかなかつながらないですね。  
ミスミ 銀さん。メールとか *twitter* 試してみました？  
銀さん うん。とりあえず、編集長にも直接入れてみた。  
こがね こちらは無事だったって知らせないか。  
こがね 向こうも無事だといいですね。  
銀さん ええ。

ハリソン 去る。

食事をはじめ、先生、こがね、銀さん。

一方、アシ3人の会話。

カンナ ケイちゃん、カレー味なんだ。

ケイ やっぱ、カレーでしょ。

カンナ あったよね？「カレー味のうんこ」と「うんこ味のカレー」どっち食べるか？ってやつ

ケイ それ、今言うか？

カンナ ケイちゃん、どっち？

ケイ ぶつよ。

カンナ ミスミは？

ミスミ それは理にかなってないですね。

カンナ えっ？

ミスミ まず「うんこ味のカレー」ですが、誰がうんこの味を知っているんです？

カンナ それは・・・そういう趣味の人が

ミスミ そうだとすると、その人がカレーでその味を再現できるほどの料理の技術を持っているのでしょうか？

カンナ さらに「カレー味のうんこ」となると、消化器官でそのような調理ができるとは思えません。

ミスミ もちろん科学的な加工処理によって、擬似的なうんこは作れるでしょうが、

ケイ それは人間の身体を経えないので、真の意味で「うんこ」とは呼べないでしょう。

ミスミ うわ、出た。屁理屈大魔王！

カンナ また、どちらも食べないという選択肢がないのも不公平です。ま、どっちも食べたいという人はいないでしょうが？

ミスミ いや、どっちかにしなきゃいけないとしたらの話

カンナ どうしてですか？どうして、そんな二者択一を他人から強いらなければならないのですか？

アトノアナ 利益もなく、不利益しかないことを選択させるなんて理にかなっていませんね。

ケイ わかった、わかった。ミスミが正しい！  
ミスミ 当たり前です。  
ケイ ところでケイさん、カレー美味しいですか？  
ミスミ この流れで美味しく食べられると思う？  
ケイ 食べたくないなら、無理して食べることはないですよ。  
ミスミ 食べるよ。美味しくなくても、生きるには食べなきゃ。  
カンナ 確かに。  
ケイ 二人とも面白い。  
ケイ そもそもカンナがややこしくしたんだろ。

しばし、3人、食べることに専念する。  
食事の音しかない休憩室。

カンナ 静かだね。  
ケイ ああ。  
ミスミ ええ。  
カンナ 真つ暗だし。  
ケイ ああ。  
ミスミ ええ。  
カンナ ねえ。  
ケイ 何？  
カンナ なんか、こんなのもいいね。  
ケイ そうか。  
ミスミ 不便極まりないですが。  
カンナ でも、みんなと一緒にいて、こんなに落ち着くのは久しぶり。  
ケイ まあ、なかなか無い経験だな。  
ミスミ まあ、いつもあつては困りますけど。  
カンナ 昔を思い出すね。  
ケイ いつだよ、昔って？  
カンナ えっと、中学の頃だったから、まだ10年も経ってないけど。  
ケイ まだ最近じゃん。  
ミスミ そうですね。  
カンナ みんなはあの時どうしていた？  
ケイ あの時？  
ミスミ いつの事ですか？  
カンナ あの震災の時。  
ケイ あっ、そうだ・・・  
ミスミ そういえば、もう6年経ったんですね。  
カンナ あの時、何していた？  
ケイ バイト先にいたかな。

ミスミ 私は前の会社のオフィスにいました。  
カンナ 家に帰れた？

ケイ あの時は、8時間くらい歩いたかな  
ミスミ 私はそのまま会社に泊まりました。

まあ、あれが無くても普段から泊まってましたけど。

ブラックか？

ここでもよく泊まっているから、変わりはないですけど。

確かに。

あの日の夜もこんな風に避難所にいたな。

暗い中でカップラーメン食べていた。

そうなんだ。

いつになったら家に帰れるか？

不安だったけど

温かいもの食べて、なんかホッとしたな。

いいな。あの時はずっと歩いてたから、寒いし、腹減るし。

道沿いのコンビニは何もなかったし

ああ、でも、灯りがあるだけでもありがたかった。

オフィスからも見えてましたよ。

建物の明かりは消えているのに、車のライトがずっと連なっていて。

なんか、嘘みたいの世界だったな。

あれ、あそこの光、そうじゃない。ずっとつながっている。

あつ、あそこか？

帰宅難民ですね。

電車、いつ動くんだろう。

さあね。

復旧には時間かかりそうですね。

どうやって帰ろうかな。

私はバイクあるから帰れるけど、明日も朝からはじめるんですよ。

じゃ、泊まるの？

みんなも泊まるんですよ。つきあうよ。

バイクなんて、危ないもの、よく乗れますね。

バイクはいいよ。満員電車のストレスもないし、

いつでもどこでも好きなところに行けるし、

自分のペースで休めるし。

体力が有り余っているからできる技ですね。

わたしはヤダ。

このやろう！ 頼んだってバイクの後ろ、乗せてやんないからな。

そんなこと、絶対ありえませんか。

二人ともおもしろい。

ところでいいのか？ 彼氏が帰りを待っているんじゃないか？

カンナ 大丈夫。今日は泊まりかもしれないって伝えておいたから  
ちゃんど家で待っていると思うよ。  
ケイ できた彼氏だな。  
カンナ でしょ。私の教育が行き届いているから。  
ケイ はいはい、のろけ、のろけ。

また、しばし沈黙。

カンナ でも、地震なんかなかったよね。  
ケイ 揺れなかったし。  
ミスミ しかし、この辺り一帯の電気は全滅だから。  
カンナ テロ？  
ミスミ 可能性はないわけではないですが、  
カンナ 情報がまったく入りませんからね。  
ケイ 今は何もわからんわけだ。  
ミスミ とにかく電気が復旧するか、朝になって陽が昇ればわかるでしょう。  
カンナ 先生のアイディアもまとまってくれないとね。  
ケイ でも、それは先生の仕事だから。  
ミスミ 私たちが口出す範囲ではないです。  
カンナ そうか・・ねえ、今ってまさにシンデレラ状態じゃない。  
ケイ ん？  
ミスミ どういうことです？  
カンナ あの子も大きな穴の下にいるんでしょ。  
ケイ こんな風に、暗くて静かで、やっぱり不安じゃないかな。  
ミスミ そうだね。一人では居たくないな  
カンナ 何を考えているでしょうね  
ケイ お腹すいたりするのかな？  
ミスミ びっくりしているだろうね。  
ケイ 目の前に起きたことに理解が追いつかない。  
ミスミ そうなりますよね、普通。  
ケイ だね。  
ミスミ そして、徐々に理解すると共に襲ってくる、不安と恐怖。  
カンナ 世界がぶっ壊れちゃったもんね  
ケイ 大変だよな。  
ミスミ ええ。

3人、窓の外の暗闇を目で追う  
それぞれに思うことがある時間。

一方、先生、こがね、銀さん 食事中

携帯のメール着信音にきづく、銀さん

銀さん あっ、編集長からです（メール確認する）

ああ。。。向こうも停電で、大変みたいですよ。えっ？・・・

こがね どうかしました？

銀さん 至急、編集部に戻ってこいと。手段は問わないって。

こがね 何があつたんでしょうか？

そうですね。編集長がこういうメールを出すというのは、  
なにか緊急の事態が起きたと考えた方がいいですね。

先生 締め切り伸びるとか？

銀さん いや。それなら「締め切り 伸ばす」のメールで済むわけですから。

こがね どうやって戻ります？ 電車も無理みたいですよ？

銀さん あっ、ケイちゃんバイク、貸してもらえます？

えっ、ああ、いいですよ。どうせ、今晚泊まりだし。

ケイ じゃ、お願い。

銀さん、乗れるんですか？

若い頃ね、いつでも原稿を受け取れるようになって、免許取ったの。

ケイ そうですか。

銀さん とにかく、これからすぐ出るから。

先生、明日朝までに変更部分をメールでください。

それを確認してGOサインだします。

先生 うーん、がんばってみる。

銀さん がんばってみるじゃなく、絶対出してください。

じゃないと、変更は認めません。

こがね先生は、手描きで入稿の場合に備えて、

ここを作業場にする手はずを。

わかりました。みんなにも手伝ってもらいます。

銀さん 明日の夜までには戻ってきますから。

ケイちゃん。キーを！

ケイ はい。カンナ、これ片付けといて。

カンナ えー。ミスミも手伝って。

ミスミ 仕方ないですね。

ケイ、銀さん、去る

続いて、カンナ、ミスミは自分たちの食事を片付けるため、去る。

こがね 先生、大変ですけど、がんばりましょうね。

先生 こがね先生。

こがね 何？

先生 あのー、「プロの漫画家」として、正直に言ってください。

こがね  
先生  
私の作品ってやっぱ「うんこ」ですか？  
えっ？  
変な事言っているのはわかっています。  
でも、いい言葉が見つからないんです。

私、バカですから。漫画オタクが漫画描いているだけですから。  
私の作品って「キラキラした夢と希望の宝箱」じゃない。  
私は、キレイなものを造って、みんなにほめてもらいたいんじゃない。  
私を感じているあらゆる汚いものを、  
私の中から生みだして、撒き散らして、  
きれいごとで済まそうとしている奴らにぶつけていきたいんです。  
こんなでっかいの！とか、こんな長いの！とかって  
「うんこ」ばかり出している。

こがね  
先生  
そんなのが喜ばれるわけじゃないですよ。  
それでも先生のファンはいるでしょ  
それって・・・フェチ？

金さん  
先生  
違うでしょ。応援してくれる人たちを信じなさい。  
でも・・・  
それをいうなら私のだって「うんこ」ですよ。

先生  
こがね  
「軀の森」なんて、超特大うんこですから。  
やめてください。それは違います。  
「軀の森」は私にとっては黄金の宝物です。  
それは誉めすぎでしょ。

先生  
こがね  
いや、漫画家「はづきみかど」が今ここにいるのも、  
「軀の森」があつてこそです。  
私は大変な「うんこ」を世に送り出したわけね。  
もしあれを「うんこ」だと言うなら、黄金のうんこです。  
あれは、残酷にも汚い世界を描きながらも、同時に美しかった。

あの、冒頭のシーン！ 今でも目に浮かびます。  
朝もやの中、静かに流れる川と濃い緑の山々。  
その山肌一面に、朽ち果てた白い墓標が無数に並んでいる。  
そこに、主人公が死んだ恋人を探しに来る。  
でも、どんなに探せど見つからない。  
どの墓もみな朽ち果てて、恋人がどこに眠っているかはわからない。  
亡霊でもいいから恋人に会いたいと願い、泣けど叫べど、  
そこにはただ、沈黙しかなかった。  
明るい陽射しと朝もやの中にある美しい地獄。  
そう。あれはね・・・この目で見た話なの。  
えっ？

こがね  
先生  
中学の頃の話だけど、私は群馬の田舎に住んだのね。  
あの頃はとにかく漫画が好きで、もちろん読むだけでなく、

先生  
こがね  
私も同じようなこととしてました。  
あれは、夏休み中だったな。

近くの山で大きな飛行機の事故があつてね、街中大変だった。  
学校の体育館にたくさん遺体が運ばれて安置所になっていた。  
遺体といつてもほとんどがバラバラなんだって。

そこに遺族の人たちが来て、一つ一つ、棺を見てまわっていくの。  
でも、自分の家族を見つけるまでに、  
どれだけ人間の破片を見たんだろう。

先生  
こがね  
そんなことが

私と同じくらい女の子も来ていた。

私は遠くからその様子を見ていたけど、

彼女がどんな気持ちなんだろうって、考えていたの。

そうしたら、その子と目があつたの。

その女の子も私のほうをじっと見ていた。

あの目は今でも覚えている。

どんな目だったの？

悲しいとか、苦しいとかじゃなく、あれはそう「虚無」。

それこそ、顔のここにぼっかりと底なしの穴があるみたいな。

先生  
こがね

その夜、私はその目が忘れられなくなっていた。

なんか今までの自分のあさはかさを見抜かれたような気がして。

とにかく何かをしなければと、スケッチブックに向かって

何枚も絵を描いた。何枚も、何枚も、夏休み中ずっと。

彼女の心の中に見えていただろう景色を想像して書いた。

それが、あの漫画。

先生  
こがね

とにかく、忘れたかったのね。

普通にあつた日常に一日でも早く戻ろうって。でも違った。

だけど、そう簡単に戻れはしない。

でも、もがいて、もがいて、もがき続けた結果が「軀の森」ってわけ。

・・・同じですね。

えっ？

先生  
こがね

私も同じです。

私も、中学生の時に、震災にあつたのがきっかけです。

まるで漫画みたいに、ビルや高速道路が倒れてた。

世界がひっくり返ったみたいでした。

・・・

先生  
こがね

私、避難所生活が長かったんです。

変わってしまった世界をずっと受け入れられず、



「なんで一緒に滅びなかったんだろ」とまで思っていたんです。でも、その時なんです。出会ったんです。

こがねなみだ作「軀の森」

もう何度も何度も読みました。震えが止まりませんでした。世界が壊れても、私は壊れていない。

むしろ、「壊れたこと」でこの世界に何か生み出せる」

ヤンカのセリフです！

そうだったんですね。ありがとうございます。

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね こがね こがね こがね こがね こがね こがね こがね こがね

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね 「うんこ」万歳ですね。まあ、人間なんて純粋にキレイなままのものなんて滅多にないし、

基本、どこかは汚いってものだからね。

でも、この世の中にあるもので役に立たないものなんてない。

役に立つうんこか。

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね そういうこと。肥料だね。やがて実になる、花になる。

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね あつ、アイドルってうんこしないって伝説があつたけど、

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね 飛ばしているってアイデアはどうですか？

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね で、飛ばされたうんこが集められている惑星（ほし）がある。

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね で、とあるアイドルが、アイドルである自分を疑問に思っ

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね うんこの海に漂いながら、夜空に浮かぶ青き故郷を眺める。

## 二人、ゲラゲラ笑う。

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね どーですか？

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね 先生、それはまた別の時にね。

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね さて、そろそろ、チーフアシスタントに戻ります。

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね えー

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね 今はシンデレラの事を考えないと困りますよ、先生！

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね そっか。よし、がんばるか。

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね 魔女パレ「うんこ姫」編 乞うご期待！

先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生 先生

こがね こがね 絶対、銀さんにボツくらうと思う。

先生 やっぱ、そうなるよね。

アシスタントたち、帰ってくる。  
こがね、アシスタントに向かって

こがね じゃ、そこ片付けて、作業場所にしましょう。  
とりあえず、邪魔なものはいったんどけといて。  
あとで、下から必要なものを集めて、こっちに持ってきましょう。  
ミスミ ハリソンさんにも手伝ってもらいますか？  
こがね そうしましょう。

休憩部屋で作品を書く準備をそれぞれ進めていく。  
その中で、先生、シンデレラの続きを考えている。

先生 シンデレラ。穴の中で何を思う？ 何を願う？  
あなたは、そこで何を望んでる？

舞台はシンデレラの話の世界。  
それと並行して現実の世界は、作業場所が作られていく。

娘 何？ なんでこんなに真っ暗なの？  
王子 みんなどこに行ったの？ お城は？  
すべて崩れ落ちた。  
これはそなたの仕業ではないのか？ 本当に魔女なのか？

王子 知らないわよ。どっか行ってよ！  
言われなくとも、そのつもりだ。

この闇の中、ただ救いを待っただけではダメだ。  
私は一刻も早くこの穴から出て、この国の民の不安を取り去りたい。

娘 ……  
王子 そなたも一緒に来ないか？  
娘 あなたと一緒になんて無理。  
王子 なぜ？

娘 母を理由なく焼き殺した。叔母の嘘を鵜呑みにした。  
王子 ナキサワは嘘を？  
娘 そうよ。母を殺されて、父は私をあつめた別荘にかくまった。  
父が死んでやってきた叔母は、私を奴隷のようにあつかった。

王子 「お前がここに隠れているとバラされなくなかったら、  
言うことをきけと」  
娘 それはまことか  
王子 みんなが言うように私が魔女なら、あなたを騙しているかもしれない。

王子 私の言葉を信じるかは、あなた次第。

王子 この国に暮らすもののすべての言葉を信じなければ、この国の長たる資格はない。

娘 信じてもらえぬのなら、それはそなたの責任ではない。えっ？

王子 私の至らなさだ。

王子 私のこの言葉を信じるかは、そなた次第だ。

王子 信じたくなければ、このままこの闇の住人になるのもいいだろう。

娘 しかし、少しでも光を望むなら、私とともに行こう！

娘 ・ ・ ・ 王子様。無礼なふるまい、失礼いたしました。

娘 あなたの公平な態度には、感謝いたします。

娘 でも、まだあなたを信じるには、足りないことが多すぎます。

娘 あなたの事も、この世界の事も、そして、私自身の事も。

王子 ・ ・ ・

娘 今、あなたに手を引いてもらってこの闇から抜け出しても、

王子 そこから先に私の居場所はありません。

王子 何者にも虐げられることなく、私が生きられる世界は、

王子 私が自分で見つけます。

王子 私は私のできることで、この闇から抜け出したいと思えます。

王子 そうか ・ ・ ・ では、私は行く。さらばだ。

王子 ・ ・ ・ いつかまた会える日があればいいな。

娘 ・ ・ ・ ええ、いつか ・ ・ ・

暗転

翌朝 休憩部屋に陽が差す。  
みんなの寝具を片付けているケイ  
遠くで複数のヘリコプターの音やサイレンが聞こえる。  
ふと、窓の外の景色に目をやるケイ

そこに、鼻歌まじりでカンナが入ってくる。  
筆記用具の入った箱を持っている。

カンナ ケイちゃん、ありがとう。  
ケイ ありがとうじゃないよ。自分のものは自分で片付ける。  
カンナ はい。

ハリソン、ミスミ、製図台を持ってくる。

ハリソン ミスミさん、どこに置きましたか？  
ミスミ ここにお願いします。  
ハリソン かしこまりました。  
こんなもので大丈夫でしょうか？  
カンナ 大丈夫、大丈夫。  
ハリソン 麺打ち台がここで役立つとは。

製図台を真ん中のテーブルに置き、作業場所をつくる。

ケイ ハリソンさん、おにぎり、おいしかったです。  
ハリソン うちに帰って、ガスで炊きましたから。  
カンナ 結局、停電は直らなかつたね。  
ハリソン そのようですね。  
ミスミ じゃ、ここまで階段上ってきたんですか？  
ハリソン ええ。いい運動ですよ。  
ケイ 大変じゃないですか？  
ハリソン いいえ、いつも階段使っていますから。  
ミスミ 水道もまだダメですよ？  
ハリソン ええ。歯磨きはペットボトルの水を使っていますよ。  
コツはコップに少し水を入れて、ブラシを湿らして、  
少し磨いてはブラシをティッシュで拭いていけば、  
最後に一口分の水だけで済みますから。  
ケイ すごい！ やってみよ。  
カンナ トイレは？

ハリソン どうやら下水は大丈夫なので、タンクに残っている水で流せます。ポリタンクに水くんできたので、お使いください。

カンナ はい。

ミスミ まさか、それも？

ハリソン ええ、下から運んできました。

あと、バスルームにキャンプ用の簡易トイレも用意しますね。

カンナ あるの？

ハリソン はい。こんなこともあるかと。

ミスミ うそでしょ？

ハリソン あっ、バレました？

いや、子供会のキャンプの指導員もやっているので、

自宅にある程度備えていたんですよ。

ケイ ハリソンさん、いろいろありがとうございます。

ハリソン いえいえ。みなさんのお役に立てれば。

笑うハリソン

ヘリコプターの轟音が聞こえ、上空を通り過ぎていく。

ミスミ 携帯のメールに気づく

カンナ なんか、たくさんヘリが飛んでいるね？

ハリソン そうなんです。情報が全然入らないのでよくわかりませんが、

どうやらデイズニー近辺で大きな事故があったようです。

ケイ そうなの？

ハリソン ええ。近所でそんなうわさ話していました。

先生、こがね 入ってくる。

ミスミ 先生、銀さんから変更案OKのメールが来ていました。

先生 ありがとうございます。他にはなんか言ってなかった？

ミスミ 編集部の方も大丈夫みたいです。それと・・・

先生 なに？

あきらめたら、そこで連載終了だよ・・・と

先生 そうか、締め切りは伸びないか。

先生！

先生 いや、冗談。

先生、今日はこれからどうしますか？

先生 こがね先生、段取りの説明、お願いします。

こがね はい。

カンナ まず、今回はデータではなく、やっぱり生原稿で入稿します。全部紙に描くってこと？

こがね

そういうこと。

先生と私は今までどおりで、

みなさんも、同じようにアナログでやります。

いつもとやり方が違うので、ここを作業場にします。

スタジオだと、パソコンとかが邪魔ですから。

一極集中の作戦本部ってわけですね。

ミスミ  
こがね

そう。お互い確認しながら進めていきましょう。

先生もここで描きながら、チェックします。

カンナ

うわっ、プレッシャー！

こがね

大丈夫。みなさんにすべて手描きをさせるわけじゃないから。

今までプリンターで試し刷りした原稿も集めて、

使える背景などは切り貼りしてもらったりします。

そんな事、やっつていいの？

カンナ  
こがね

昔はね、よくコピーを切り貼りましたものよ。

それが今ではパソコンでやっているだけのこと。

でも、プリントアウトしていないものは？

カンナ  
こがね

それはもう一回描くしかないわね。

背景は資料写真からトレースして。

ミスミ

トレースといっても、コピー機が使えませんよ。

こがね

そこは模写してみて。

それが難しいなら、その窓をトレース台にして。

カンナ

どういうこと？

写真の上に紙を載せて、日光で透かして輪郭線をとるの。

細かい効果は私が担当するから。

カンナ

柄とかのトーンはどうするの？

先生も私もスクリーントーンのスチックがあるから大丈夫。

まだ持っていたんですか？

ケイ  
こがね

こんなこともあるうかと！

### みんな笑う

こがね

細かいところは、基本私から指示出します。

先生の下書きが済んだページからみんなに割り振ります。

私、ほとんどペンを使ったことがないですけど・・・

カンナ

大丈夫。ベタは黒マジックでいいし、

私のロットリングペンがあるからそれを使って。

カンナ

ロットのリング？

ミスミ

ロットリング！

ドイツの万年筆メーカーのペンで、製図用に使われているやつですね。

カンナ

なんか高そう！

こがね 私たちの世代だと、あこがれのアイテムだったわ。  
カンナ なんかにレベルアップしそう。  
こがね 遠慮なく使ってね。

あと、私のデスクの上に、私が昔描いた原稿を置いておくから、  
それも参考にしてみて。

先生 じゃ、私が最初に見る！

こがね 先生はさっさと下書きに入ってください。

先生 ケチ！

こがね これでよろしいですね、先生。

先生 うん。こがね先生、ありがとう。

### 先生、みんなの前で演説をはじめ。

先生 さて、いまだ電気がこない。しかし、締め切りまではあと二日。

これはかなり危機的な状態である。最悪とも言える。

でも、私は簡単にあきらめたりはしない。

「魔女パレ」に出てきた魔女たちが

どんなに絶望の淵に突き落とされても、

這い上がってきたように、我々も這い上がろう！

生き根性 みせたれや！

全員 はい！

### 各自、自分の仕事の準備をはじめ

ハリソン 先生、がんばってください。

先生 あ、ハリソンも、よろしくお願いします。

ハリソン この停電で不安な夜を過ごした人に、力を与えてくださいね。

先生 いや、私にはそんな力は・・・

ハリソン ありますよ。以前、僕も力をもらった一人ですから。

先生 えっ？

ハリソン 実はこの前の震災の時にね、妻を亡くしたんですよ。

先生 えっ？

ハリソン 津波で全部流されてしまいました。

娘は幸い学校に居たので大丈夫でしたが、妻は家にいてね・・・

先生 そんなことが・・・

ハリソン 現実を受け入れられず、私も娘も言葉を失くしてしまいましたね。

お互い言葉を交わすことすら、どこか避けていたんですよ。

でもね、避難所で娘が先生の作品見て

久しぶりに口をきいてくれたんですよ。

「私のほうがもつと不幸だった」

先生 ……  
ハリソン もうなんて返していいかわからず、なんとか

「不幸を比べはじめると、さらに不幸になるから、  
まずは比べるのをやめよう」って言ったんです。

そしたら、「どうやったたらやめられるの」って。

それで？

ハリソン 「実は恥ずかしいけど、お父さんもやめられないから、

そしたらお前が注意してくれ」って

すると、ようやく笑ってくれたんです。そして僕も笑ってたんです。  
二人して泣きながら笑っていました。

それが久しぶりに親子で交わした会話だったんですよ。

先生の漫画が無かったら、

あのままずっとふさぎこんでいたかも

先生 …… 娘さんは今はどうしているんですか？

ハリソン 自衛隊にいますよ。結局僕らと同じ仕事を選んだんです。

先生 えっ、ハリソンって自衛官？

ハリソン あ、言わなかったですか？ これは失礼いたしました。

先生 いえいえ。

ハリソン 娘はカナナさんと同い年くらいかな？

不安に過ごしている人を少しでも救えるようになって、  
がんばっていますよ。

先生 立派な娘さんですね。

ハリソン ええ、誇りに思います。

先生 娘さんが結婚するときは、ハリソン絶対号泣だね。

ハリソン （すでに号泣状態）

先生 早っ！

ハリソン すみません。

先生 さて、はじめるか！

じゃ、今から、このテーブルの上が戦場だ！

おのあの作業を開始する。

まるでそれは最前線の兵士の「とく、必死になっている。

へリコプターの音が鳴り響く。

暗転



原稿を描きつづけている人たち。

戦況は明るいとはいえず、疲弊の色が見える。

栄養ドリンク、アイソノン、肩こり対策の跡も。」

己の疲労と眠気の限界に戦いながら作業は進む。

こがね ちよつと、ここで休憩しましょう。

手を休め、息抜きをする、アシスタントたち。

こがね どこまで進みました？

ミスミ えっと、完成が16ページで、残り15ページです。

うちの仕上げチームが6ページ預かりです。

私が今4ページ分かな？

なら、先生が残り5ページです。

先生 下書きは終わって、ペン入れやつてる。

間に合いそう？

明日もありますから、このペースなら、なんとか。

ふー、一時はどうなるかと。

もう手が動かない。

こがね 先生が丁寧に教えてくれるから、助かりました。

かなりハイペースで進みましたね。

いや、試し刷りの原稿がかなりあったから、

使える素材が多かったのが幸いだっただわ。

本当は紙資源節約のために、

無駄に試し刷りはするなど言っていたのですが（カンナに目をやる）

役に立ったでしよ。

今回はたまたま。

地球にやさしくありませんよ。

こんなこともあるうかと。

似てねー。

違う？

カンナ

### ハリソン登場

ハリソン みなさんご苦労さまです。

こがね ハリソンさんも、いろいろありがとうございます。

ハリソン そろそろだと思って、御飯の用意しておきました。

こがね さすがですね。

ハリソン すみませんが、今回も麺類です。  
ケイ またですか？  
ハリソン 乾燥パスタを水で戻したのですが、  
でもお湯で戻すよりもモッチモチなんですよ。  
カンナ ヘー。  
ハリソン あとはそれにレトルトのソースをかけました。  
ここは手抜きですみません。  
こがね いろいろありがとうございます。  
ハリソン では、みなさん、順番に食堂へ。  
カンナ はい！

そこに、銀さん 帰ってくる。

出たときと同じ服装だが、なぜかワイルドに見える

カンナ うわっ！  
ケイ なに？  
ミスミ だ、誰？  
ハリソン あっ、銀さん、おかえりなさい。  
銀さん ……ただいま。

銀さん、ゼーゼー言っている。

ケイ ペットボトルの水渡す。ワイルドに一気にあおる

ケイ 銀さん、大丈夫？  
銀さん ケイちゃん、バイクありがとうございます。あの子、よく走ってくれた。  
ケイ そうですか。。。えっ？  
銀さん 会社の駐車場に停めてあるので、今度ちゃんとして返すね。  
ケイ あ、あの、えっと、私のバイクは・・・  
銀さん 先生！  
先生 はい。  
銀さん まず編集部からの連絡を伝えます。  
先生 都心も停電の状態ですが、大きな被害は無く、  
編集部、印刷所も予定通り来月号は発行するよう、進めています。  
先生 そう。  
銀さん ただし、先生の作品については、来月号の掲載は無しとなりました。  
先生 一回休みってこと？

安堵の表情をみせるアシスタントたち

先生 でも、どういうこと？ 予定通り来月号は出すんでしょ？

銀さん 先生はお休みです。

で、その次も、編集部で審議することになってます。ただ、それも、シンデレラ編最終話ではなく、別のエピソードの掲載をお願いする可能性があります。別のエピソード？

銀さん あくまで可能性です。状況次第では、「魔女たちのパレード」はこのまま連載終了となります。

先生 その場合は、少し期間において新作の連載を依頼いたします。連載終了って！

銀さん とにかく、編集部としては、

先生にはこれからも本誌で描いていただきたい。

ただ、「魔女たちのパレード」の継続は非常に難しいことをご理解いただきたいとのことです。

先生 何、それ？ そんな事、納得できるわけがない！

銀さん 私だって納得できません！！

先生 銀さん。

銀さん これは、編集部の意向ではなく、上層部からの指示です。

私だって、こんな理不尽な指示には従えません。

上は、連載は即座に打ち切り、単行本の発行も中止、

先生との契約も破棄というものでした。

こがね そんな！

でも、編集長含め編集部全体で交渉して、

なんとか連載を途切れさせないように

この条件まで譲歩させましたんです。

こがね どうしてそんなことに？

銀さん 大きく深呼吸。

銀さん 今から言うことは、とうてい信じられないことだと思う。

でも、信じられないことが、今、現実に起こったの。

それも、私たちのすぐそばで。

銀さんに注目するみんな。

銀さん まず、この停電。

これは浦安を中心に大規模な範囲で起こっていて、

通信、交通はいまだ混乱したままです。

原因や、復旧見込みなどはまだ発表されていません。

銀さん そして、この停電とは別の大事件が起きているんです。

とにかくこの事で今、世界中がパニックになっています。

銀さんスマホの画面を見せる

一同、写真を見て、最初は何の事なのか、わからない。

だが、いろいろ画面を見て、事態を理解したとたん、息をのみ、硬直。

みんな、ゆっくり窓の外の ディズニーの方角を見る

カンナ うそ！

ケイ これって、ディズニー・・・だよ

ミスミ お城が無い・・・

こがね そんな・・・

先生 嘘でしょ、こんなこと。

銀さん いや、本当に起こったことなんです。

ケイ シンデレラ城広場が無くなるくらい、大きな穴ができています。

銀さん 何でこうなったの？

ケイ それが一切不明なんです。

銀さん 自然災害なのか、事故か、事件かも不明。

先生 被害者も被害規模も不明、不明ばかりで、

わからないことだらけなんです。

先生 とにかく、あそこにあつた城が

まるごと無くなってしまった事だけは事実です。

先生 わけわからん！

銀さん そして、問題はそこじゃないのです。

先生 そこじゃないって？

銀さん 確かに、世界にとっては大きな問題でしょう。

先生 でも、私たちにとってはさらに大きな問題が起きているんです。

先生 えっ？

銀さん この衝撃的な映像が、世界中のニュースやネット記事で流れています。

先生 あわせて、先生の事も世界中に流れています。

ミスミ そうか！ 4話のラストシーン！

銀さん ええ。

カンナ 何？

ミスミ まさか、炎上ですか？

銀さん そう。最初は、これが先生の描いたシンデレラ城が消えた画と

酷似しているという指摘から始まりました。

先生 この時はまだ一部でのやりとりでした。

銀さん しかし、これを発端に徐々にデマが拡散されはじめました。

先生 デマって？

銀さん 先生、落ち着いて聞いてくださいね。

先生 これは誹謗中傷、流言飛語の一種です。

先生 「テロリストがこの漫画を模倣した」とか流れて、先生の責任を迫及する声があがったりしているのです。馬鹿か！

銀さん

それだけならまだましかもしれませんが。

先生を「予言者」扱いしたり、

「先生がテロリストで、これは予告状で書いた漫画」とか、「終末思想のオカルト教祖」など

どんだんデマが広がっています。

そんなの嘘に決まっています。

ケイ

銀さん

もう、みんな冷静さを失っているんです。

先生

そんなの好き勝手に言わせればいいよ。

私はそんなもの関係ないんだから

銀さん

いや、それだけじゃないんです。

そのデマを裏づけするように

先生の過去の作品を使った画像などもたくさん偽造されて、さらに炎上は拡大し続けているんです。

なんてこと。

こがね

でも、大丈夫！

私はみなさんの味方です。みなさんを守りますから。

カンナ

かっこいい！

編集部の人たちもみなさんを守るべく、今、戦っています。

銀さん

ありがとうございます。

ハリソン

僕も張り切ってお守りいたしますよ！

ミスミ

いや、ハリソンさんは張り切らなくていいと思います。

ケイ

うん。そう思う。

ハリソン

えっ？

銀さん

以上が、私が知りうる情報です。

まずは、それをお知らせしたくて戻ってきました。

### 動揺を隠せない人たち。

先生

・・・みんな、聞いてくれる？

### 一同 静まる

先生

どうやら、外の世界はえらいことになっている。

漫画なんて描いている場合じゃないのかも知れない。

でも、世界がどうなっているかわからない。私の知ったことじゃない。

とにかく、今は描き続ける。

余計なことを考えず、私は私の描きたいものを全力で描く！  
先生！  
銀さん、それでいいですか？  
はい。メールでお返事したように、あのプランでお願いします。  
いや、あれでなくてはいけません。  
世界がこんなだからこそ、あのシンデレラが生まれたんです。  
銀さん。  
先生  
銀さん  
これで終わりにはさせません。  
これからまた編集部に戻り、あの石頭どもをぶっ飛ばしてきます！  
先生  
お願いします！  
では、行ってきます！  
銀さん、気をつけて。  
大丈夫ですよ。

**サムアップして、出撃する 銀さん**

ケイ あ、銀さん、私のバイクは・・・

**去っていく 銀さんを見送るみんな**

先生 とは言ったものの、こいつはまいったね。

**みんな、不安そうな顔して、先生の近くに集まってくる**

先生 もちろん、これは私のわがまま。もう締め切りはなくなったし、このまま頑張つて描いても、掲載されないかもしれない。でも、私はこれを締め切りまでに仕上げたい。別にプロ意識とかじゃないし、読者が待っているからでもない。暗い穴の中にいるシンデレラをこのまま放つてはおけない。私は漫画で戦う。そして、文句を言う奴らをブツつぶす！  
先生・・・

先生 ここで帰っても、私は文句言わない。  
それはそれで正しいと思う。  
理にかなってないな・・・  
ミスミ？  
ミスミ これは単なる時間の浪費です。

みんな

わかってるんですか？

ボツになるってわかっているのに、頑張るバカがいますか？  
でも、まだボツになるって決まったわけじゃ・・・

ミスミ 出版社がビビッているんですよ。何をやっても自粛になるでしょ！  
先生 何であろうが、私たちは漫画家だよ。何も後ろめたいことはない！  
ミスミ わかっています。そういうことじゃないんです。怖いんですよ。

こうやって、泊り込みまでして、必死に頑張っても、  
役立たずだって、無意味だって、言われてしまうことが。

馬鹿らしいでしょ。虚しくありませんか？！

先生 おそらくミスミの言うとおり、私は無駄な事やってるのかもしれない。  
でも、描く！ それが「漫画家」だ！

ミスミ ああ、なんてバカばかりなんだ。

ここにいる人は、非効率なやり方をあえてやる。

なのに、楽しそうなのはなんでだ？

まったく、まったく、楽しそうにして

だって、楽しまなきや、もつたいないでしょ。

カンナ ミスミ ああ、もう、嫌いだ。もう大嫌いだ。

こんな屁理屈ばかり言っている自分が。

面倒なことを避ける理由ばかり探している自分が。

先生 ミスミ。

もう何かがこのあたりにもやもやとあるんですよ。

ことばにできないけど、なんか矛盾しているものが

まったく理にかなってないけど、なんか捨てられないにかが。

こがね 大丈夫よ。あなたは真面目を真面目にやっっているだけ。

私たちがそこまで真面目にできていないだけだから。

自分を誇っているんだから。

ミスミ こがね先生！（号泣）

あーあ、壊れた。

ケイ ハリソン

（号泣）  
えっ、なんで！？

先生 ミスミ、ありがとう。いつも正直に言ってくれて。

本当にバカだよ、私たちはバカだ。でも、バカにならないと、

自分が賢いって思っている石頭な連中の想像の斜め上には

行けないから。

こがね ええ。そして、そんなバカたちを応援してくれる

銀さん、編集部の人たち、そして、読者のみなさんがいるんですから。

頑張りましょう。私は先生に従います。

そのために、わたしはここに来たのですから。

先生 こがね先生。

わがまま結構。みんなもいいわよね？

カンナ ケイ！

バカ上等ですから。

ミスミ （身振りで同意）

こがね      という事です。アシスタント一同、先生と心中覚悟で。  
ハリソン    僕ももちろん賛成です。

先生          ありがとう。本当に私は果報者だ。

こがね      だから、みんながあつと驚く作品にしましょう。

先生          そうだな。みんながうんこちびるくらいの作品にしてやる。

ハリソン    そんな、はしたない！

先生          よし。では、注目！ 今から重大発表があります。

ケイ          えっ？

先生          ストーリーの変更を行う。リライトだ！

みんな      ああー（悲鳴）

ケイ          まさかと思っていたが、まさかだったあ！

カンナ      びえええ！

先生          そりや、描いても意味ない事になるかも知れない。

でもね、勝手に限界決めて、あきらめたくないんだよ。

描きたいものを描く！

ごめんね。でも、どうしても描きたいんだ！

鬼！

悪魔！

カンナ      このうんこ野郎！

ミスミ      そんな、はしたない！

### 暗転



5

ものがたりのおわり

暗闇の中、無邪気な声が聞こえてくる。

声

ぱらぱら、ぱらぱら 降ってきた  
空から 人が 降ってきた  
ぱらぱら、ぱらぱら 降ってきた  
たくさん 人が 降ってきた

声

大人も 子供も 降ってきた  
男も 女も 降ってきた  
空から たくさん 降ってきた  
穴の 中に 降ってきた

声

真っ赤に 真っ赤に つぶれてる。  
真っ赤に 人が つぶれてる  
真っ黒 真っ黒 焦げている  
真っ黒 人が 焦げている

暗闇の中、娘の姿だけが浮かびあがる。

娘

ねえ、ねえ、何か話して？  
外では 何が起こったの？  
理由（わけ）もわからず 裁かれてるの？  
理由（わけ）もわからず 殺されてるの？

娘

みんな、みんな 黙ってる  
みんな、みんな 動かない  
私だけが しゃべってる  
私だけが 動いている。

娘

手を 動かせる  
足を 動かせる  
息を している  
声を出せる  
私は 死んでいない  
私は 生きている  
心も 体も

アトノアナ

語り部

無数の屍を 乗り越えて

昼と夜を 乗り越えて  
娘は穴から這い上がりました。  
そこで 娘が見たものは

語り部

大きなお城 ありません  
賑やかな街 ありません  
豊かな緑 ありません  
あるのは 廃墟だけ  
誰もいない荒野。

娘

誰かが 落ちている  
誰かが 落としている  
私には関係ない。  
私はここに落ちたくない。

語り部

その時でした。大きな地鳴りがしたかと思うと、  
穴のそばから 真っ白な塔が現れました。

語り部

娘は裸足で荒野を歩き出しました。  
その足が血に真っ赤に染まっても、  
娘はその歩みを止めることなく、  
一步一步進んでいきました。

語り部

やがて、娘の姿は見えなくなってしまうました。  
墓標のように静かに白く輝く塔。屍が折り重なる黒い穴。  
そして、誰もいない荒野には  
まっすぐ進んだ小さな赤い足跡が残っているだけでした。

暗転

悲鳴が聞こえる。明かりつく。  
絶叫しながら、先生が飛び込んでくる。それを追いかける銀さん。

先生　ぎゃーーー

銀さん　先生！　先生！

先生　はー、もう駄目。駄目！

銀さん　先生！

先生　もう何も出てこない。出るわけがない！

銀さん　やりましょう！

先生　やりたくないっていったら、やりたくない。

銀さん　やりましょったら、やりましょう。

先生　やだ！

銀さん　巻末のコメント書くだけです。

先生　もう何もでない。出るとしたらうんこだけ。

銀さん　何を言っているんですか！

先生　うんこしか出ない。うんこ、うんこ。

銀さん　もう、コメント全部うんこって書いてやる。

先生　そんなの、編集の私が許すわけ無いでしょ。

銀さん　許さなくてもやる！

### 沈黙

銀さん　これ、絶対来月号に載せますから。

だから、ちゃんとコメントはもらいます。

このシンデレラ編の最終話は、絶対、発表するべきです。

でも、いいの、銀さん。上に逆らってまで載せるって。

間違いない、それだけの力がある作品です。

編集部一丸となって戦います。

それでもダメなら、私は会社を辞めて

これを自費出版しちゃいますから。

先生　ええ！

銀さん　いや、いいんです。

今まで数多くの漫画家さんと共に作品を作っていて、

いろんなしがらみで、世に出せなかった事もたくさん経験しました。

だから、これはひとつのけじめです。

あんな事件が起こって、これからの世の中が

いままでどおり同じに暮らせるとはわかりませんから、

私も私のやりたいように行きます。

銀さんもバカだ。

先生 先生には負けますけど。

先生 絶対負けないから！じゃ、最悪のときはお願いします。

銀さん あ、自費出版することになったら、私が編集長って事ですよね。

編集部の都合でボツになった魔女のエピソードも

がながん載せ放題ですね。

先生 人魚姫編とかね

銀さん 海外からの風俗嬢ってアイデアはよかったんですけどね。

新エピソードもお願いしますよ。

なにかもうアイデアはあります。

先生 えっとね・・・

銀さん あるんですね。

先生 うん・・・あっ、また今度ね。

銀さん そうですか？ 楽しみにしていますよ！

### アシスタント一同 入ってくる

銀さん みなさん、お疲れ様でした。

こがね 無事、お約束どおりの締め切りを守りましたよ。

ミスミ シャワー浴びたい。

ケイ あー、もう死ぬ。

カンナ もうダメ。

銀さん 本当に生みの苦しみでしたね。

先生 そうそう、でも便秘解消です。すっきりしました。

かわいい子ですから、大切にしてくださいね。

銀さん 先生、本当の産みの苦しみはこんなもんじゃないらしいですよ。

こがね そうそう、もう身体が壊れるかと思うくらいですから。

カンナ なんか自分の下腹からエイリアンが出てきたような感じ。

### 一同 驚きの声

カンナ えっ、なんで驚いているの？

ミスミ カンナ、出産経験あるの？

カンナ うん。ただいま2歳。イケメンだよ（携帯をみせる）

ケイ おお・・・じゃ、旦那さんもイケメンなんだ。

カンナ うん。でも、別れたし。

### 一同 驚きの声

ケイ　　じゃ、バツイチってこと。  
カンナ　ううん、バツ2。

一同 驚きの声

ケイ　　なんかわからんけど、恐れ入りました。  
銀さん　じゃ、私はこれで。みなさん、ゆっくり休んでくださいね。  
先生、また水曜日に来ますので。

銀さん 去る

ケイ　　ああつ、銀さん・・・

ハリソン 入ってくる

ハリソン　みなさん、おつかれさまでした。  
こがね　ハリソンさんもおつかれさま。  
ハリソン　いやいや、みなさんほどではないですよ。  
ミスミ　じゃ、私は帰ります。早く自分のベッドにダイブしたいですから。  
こがね　みんな歩いて帰るの？  
ケイ　　ええ。  
カンナ　みんな一緒だから大丈夫。  
ハリソン　水と食料を入れたリュック用意しましたので持って行ってください。  
ミスミ　さすが、ハリソンさん。  
ケイ　　助かるー！  
カンナ　こんなこともあるうかと。  
ケイ　　だから、似てないって。  
ミスミ　じゃ、またよろしくお願いします。  
こがね　はい。よろしくね。  
先生　　またね。

カンナ 窓の外を見ながら

カンナ　シンデレラ城、どうして無くなっちゃったんだろ？  
ケイ　　知らないけど。  
ミスミ　とにかく、まず家に帰る事を考えないと。  
カンナ　はーい。

アシ3人 去る

ハリソン さて、私も片付けが済んだら帰ります。

まだ停電は回復しないようですけど、  
少しづつ情報やら救援物資とかも入ってきたので  
なんとかなりそうですね。

先生 ありがとうございます。

ハリソン いえ。当たり前前的事了りただけです。

### 敬礼して、ハリソン 去る

こがね 頼もしいですね。ああいう男性は貴重ですね。

先生 うん。本当。いい人だね。

こがね ・・先生は家庭を持つとかは思ったりはしないんですか？

先生 無理無理無理無理、そんなの想像つかない。

こがね でも、思いもよらない事がおきるのが現実ですよ。

先生 そうなんだよな。

どんなに頭の中でとんでもない事を考えても

現実はずっと上を行くんだよな。

「私のほうがもっと不幸」か・・・

ほんと、現実の方が漫画だよ。

こがね そうですね。

先生 そう考えると、現実の家族の方が、

何が起きるかまったくわからないものなのかな？

こがね そうですよ。私なんて、漫画ヒットして、

印税入って、生活も安定して、そして、結婚して、子供が生まれて、

このままささやかだけど幸せな生活かなと思ったら、

私があんまり漫画家生活に没頭しすぎて、

旦那は浮気の果て失踪、娘も反抗して家出したつきり。

もう典型的な家庭崩壊。

まあ、私には漫画を描くしか能がなかった。

善き妻、善き母である力がなかったのね。

先生 ええっ！ そんなことが！

作品に使ってもよろしいですよ。

先生 先生、一緒に幸せになりましょう。

こがね こちらこそ、よろしくお願ひします。

先生 はい、一生幸せにしますね。

### 笑う二人

こがね 幸せって何でしょうね？

幸せな生活！ 幸せな毎日！

何も起きないのが一番なんでしょうけど、  
なかなかそうはいきませんよね。何かしら起きますから。  
まあ、先生はそれを楽しんでるように見えますけど？  
そう？

先生  
それがいいんじゃないですか？  
先生  
何もないとつまらないよ。

ただどさ、とにかく邪魔をするだけの奴らには困ったもんだね。  
どうして、放っておいてくれないかな？ 本当、めんどくさい。  
あー、ヤンカになりたい！

「壊れたことでこの世界に何か生み出せる」  
そんな、知恵と勇気と力が欲しい！

「壊れる前の世界がよかった」なんて言ってもね。

こがね

いまさら戻れませんからね。

先生

でしょ。空いた穴がふさがっても、消えないものが多すぎるよ。

何かさ、神様に文句言いたくなるよ。

「バーカ、バーカ！ 余計なことなんてすんな！」

地響きがする。

目の前の景色に驚く二人

こがね

・・・先生。

先生

あ、ああ。

こがね

あれって。

先生

あるよね。

こがね

お城が・

続いている轟音

笑い始める先生

先生

あー、もう、これだからこの世界はネタがつきないのよ。

もう漫画のネタにするしかないじゃない。

負けないよ。絶対負けないよ。

いつの日か、現実をはるかに超えた漫画を描いてやる。

みてる、現実！ 私は負けないから！

窓の前、無数の黒い灰燼が降ってくる。

その中で、笑いながら世界を見据える先生

く 終幕 く